君の名前の色

nishi-higashi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の名前の色

【Nコード】

N5843I

【作者名】

nishihigashi

【あらすじ】

ちよつと惚れっぱい男が、日夜苦悩し悶絶し悩んで喜んで悲しんで・・・妄想が暴走気味な、現在進行形的なラブストーリーです。

出会いなのかな？

そう・・・それは、突然訪れたんだ。

まるで感染したかのように、気が付いたら僕のココロの中に住んでいて、いつも僕を切ない気持ちにさせてくれる。

僕のココロのナカに居る君も、現実の貴女のように自由で、読めなくて、掴めなくて・・・

一体自分がどうかしてしまったのだろうか・・・

そう。

全ては”あの日”が始まりだったんだ・・・

2008年7月XX日 都内某所

昼間の暑さが夜中まで残った街中を、軽いめまいを覚えながら同僚と歩いていた。

軽く食事をすませてから、ある店に入った。

その店は、僕らにとっては場違いな所で、自分の周りの空気に若干の違和感を感じていた。

きつと、周りがと言うより、自分自身がその環境に馴染めなかったんだろう。

多少躊躇いながらも、楽しんでいたんだと思う。

その場に、あなたが居たんだ。

その時は特に意識してはいなかった

別に、その時は特に気にはならなかったんだ。

もの静かに君が佇んで居て、僕は自分に似合わない空気に違和感を感じながら、

ちよつと照れくさそうに、少しだけぎこちない会話をして・・・

すこしお世辞を言ったり、かるく視線を合わせて微笑んだり、そして視線を外してボンヤリしたり・・・

また少しダケ話しをして・・・

途切れがちな会話しかできない自分に、ちよつと嫌気がさしたりして・・・

やや薄暗いホールで見た君は、控えめな女性を演じていたのだろうか？

含み笑いを浮かべ、やや潤んだ目で周りを見渡していた君。

今思えば君も、その場の空気に違和感を感じていたのだろうか・・・

初めて君と会った時の記憶は、そんなに薄らいで居ない事に気が付いたんだ。

その時は特に意識していたワケではないが、思い起こせば、あのときの記憶が鮮明によみがえってくる。

そう、

薄暗くてタバコの煙が揺らめいていた、セピア色に感じたあのホールで、

一人だけ周りには溶け込むことを拒絶したいるかのような色を持っていた君に出会ったんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5843i/>

君の名前の色

2010年10月15日22時55分発行